

## 安全登山義務違反

今年の年末年始も山岳遭難が新聞紙上を賑わした。毎年、年末年始に遭難が多いのは長期休暇が取り易く普段それ程、入山しない人が登山するからだろう。

一口に遭難と言っても様々なケースがあり、新聞報道だけでは安易な論評は出来ないが、明らかに「お粗末」なパーティーがあったのも事実だ。

東北のある会が〇山に上り下山遅れ（遭難）で捜索願いが出された。原因は雪が深く行程がはかどらず、下山途中でビバークしたからだ。

まあ、そんな事は長く山をやっていれば一回や二回はある。それはいい。では何故、下山遅れを携帯か無線で連絡出来なかったのか。

東北へ行った事がある方は分かると思うが、東北の山は携帯が殆ど使えない。では無線は？無線は持っていなかったのだ。

ところが、その会は2000年の秋にも谷川岳で転落・骨折事故を起こしビバークして下山が遅れた。その時も無線が無く連絡が出来なかった。

会ではその時の反省で「今後、山行に無線機持参は習慣化したい」と決定したが、その教訓は生かされなかった。

また、十石山から乗鞍岳へ縦走した京都のパーティーも下山遅れだった。このパーティーの場合は登山届もなく、無線機も持参していなかった。あの雪深い十石山に上るのにハイキング感覚だったのだろうか？信じられない。

両パーティー共、無線機があれば留守本部と連絡も取れ、それ程大騒ぎされる事もなかっただろう。

下山が遅れ捜索願が提出されたり、救助依頼が要請されれば、警察が出動しヘリが飛ぶ。地元の消防も狩り出されるかもしれない。

警察とか防災とか、公のものはヘリも全てタダで、つまり、私達の税金から支出される訳である。

余りにお粗末な遭難でたびたび税金や公費が支出されるのは、幾ら緊急の事態とは言え、いま一つ納得がいかない。そして、全く無関係な地元の警察、消防などには過大な労苦を強いることになる。

私達は山岳会に入会し、常日頃から「安全登山」のために学習を重ね、訓練を積み、合理的な装備を研鑽（けんさん）し備えている。要するに「安全登山」のため多大な金と時間を掛けているのである。

登山者は山に上る以上、最低の「安全登山義務」があるのではないか。無線機を用意したり、登山届をするのは当たり前、義務、常識だろう。

それを怠り不安全登山をし第三者に迷惑を掛けたら、今度は「安全登山義務違反」と呼ばせて頂こう。

今後は減点制にし、点数不足登山者には講習義務もいいかも知れない。